

東北関東震災救護活動を終えて

滋賀県より東北関東震災救護活動支援を要請され、我々は福島県会津若松地域での医療支援活動を行うこととなった。会津若松地域は直接被災を受けた地域ではなかったが、津波被害で被災した地域や原子力発電事故による放射能汚染で被災した地域の方々が避難されてきたところであった。

被災からちょうど1カ月が経ち、この地域には物資は比較的良好に流通していたが、避難所での生活環境はまだまだ悪い状況のままであった。

我々の医療班は本郷農村環境改善センターで4月11日10名、13日14名、新鶴構造改善センターで4月12日15名、会津自然の家で4月11日6名、12日2名、13日6名、川西公民館で4月11日19名、12日10名、13日7名、板下農村環境改善センターで4月12日5名の診療を行った。中でも体育館に避難されたところは、床に御座を敷きその上に布団を敷いて睡眠をとられていたが、4月になったとはいえやはり東北であるが故、朝夕はまだまだ冷え込み体調を乱す方が多く、食事も調理施設がないところでは、パンやおにぎりのみで、温かい食事ではなく、また1日に2食のところもあった。そのため、これら5つの公共施設での生活環境を少しでも改善すべく、感染予防のための手の消毒液やペーパータオルの配給や少しでも温かい食事ができるよう野菜スープのパックを配給したりと保健的支援活動も行った。その他社会福祉事務所に、被災者の生活環境改善や今後の持病に対する継続治療もできる様に働きかけ、現在徐々にではあるが、公共施設から宿泊施設へと被災された方は移動されつつある。

今後は宿泊施設ならではの問題点や心のケアなど問題点がまだまだ山積しており、今後も支援活動の必要性がある状況であった。



医療救護班メンバー



出発準備の様子



現地の様子